

市の9月補正予算案（コロナ対策）

共産党の提案が実現 特別給付金を新生児にも給付

宇治市は7月定例会に、補正予算案を提案。その中心は、新型コロナウイルス感染症対応策（4億4461万円）です。

4月28日以降の新生児にも 特別給付金を支給

すべての国民に10万円を支給する特別給付金は、今年4月27日までに生まれた人が対象でしたが、その後に生まれた新生児にも支給を求める声が広がり、4月28日から来年3月31日までに生まれた子どもにも支給を拡大するというものです。出生時の住民登録が宇治市である新生児が対象で、1人10万円。郵送による申請となります。申請期限は来年6月末までです。

7月臨時会で削減された フレイル予防、減額して再提出

7月臨時会で市長から提案されながら、議

会の全員一致で修正・削減された高齢者フレイル予防対策事業が、7月の4000万円から2900万円に減額されて再提出されました。7月補正予算案にあった健康体操のDVD配布などを除いて、1100万円減額したものです。

補正予算案は、議会の議決を経て成立するものです。

共産党議員団は、9月4日に新型コロナ対策について第5次申入れとして10項目の実施を求めました。今回の補正予算では、新生児への特別給付金支給とお茶の市場価格下落に伴う生産農家支援が実現しました。

引き続き、医療機関、福祉施設、学校などの事業所において希望者全員の定期的PCR検査への助成、医療機関・福祉施設への応援給付金の支給などの実現をめざして、みなさん方と力を合わせてがんばります。

山本市長が退任を表明

山本宇治市長は、9月16日、任期満了（12月18日）に伴う次期市長選挙（12月6日投票）に立候補せず、今限りで退任することを表明しました。

山本市長は、敬老会の廃止、民間保育園運営補助金の削減、在宅高齢者介護者激励金の廃止、道路や河川の維持管理費を縮小など、市民サービスにかかわる72事業を切り捨て。

また、国民健康保険への特別繰入の廃止、70の公共施設の使用料を値上げし、宇治公民館・市民会館廃止、大久保幼稚園廃止、3つのふれあいセンター廃止を強行しました。

一方で、80億円の太閤堤跡歴史公園の建設を強行し、さらに天ヶ瀬ダム周辺の観光開発のとして16億円をかけて富裕層向けホテルの建設を進めようとしていました。

9月22日議員団だよりにおいて、山崎恭一議員の質問順番を「9番目」としていましたが、28日の「4番目」の誤りでした。

日本共産党宇治市会議員団

議員団だより

2020年9月27日 TEL0774-22-3141